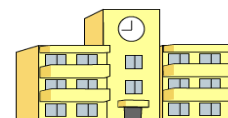


TNB58だより



平成 28 年 9 月号

実り多き 2 学期になりますよう。

残暑厳しい中、2学期が始まりました。運動会・体育祭に始まり、2学期は学校行事だけでなく対外的な大きな行事もたくさんあります。児童生徒は、行事を終えるごとに心も体も遅く大きく成長していきます。教職員のみなさんが子ども達とともに充実した日々が過ごせますよう、私たちもしっかり支援していきたいと思えます。何か支援することがございましたら、いつでもどんなことでも結構ですので気軽にお声かけください。2学期どうぞよろしくお願ひいたします。



さて、9 月は、「国語科」について考えてみたいと思えます。

「うちの学級の子は、よくわかっていないのですよ。」という言葉を目にするがありますが、「わかっていない。」という前に私たちは子どものことをよく理解できているでしょうか。子どもを理解するためには、一人一人の児童生徒をよく観察することが大事です。自分一人の力で理解できなくても周りの仲間と組織で情報を共有するとよりよく理解することができるはずで。

一人一人の理解度と学級の実態、その学年の発達段階を踏まえ、どんな力をつけるのかねらいをしっかりと持って授業に臨みましょう。明日の時間の児童生徒の様子を想像しながら、楽しんで教材研究をしましょう。

国語科で培う力は、発達段階に沿って、言葉を通して、「心」を育てることであります。自分の伝えたいことを適切な表現で相手に伝えること、相手の伝えたいことを自分がしっかりと受け止めることは生きていくうえで大切な事です。「丁寧」に「根気」よく育てることが大切です。

「吉永幸司の国語の強化書」に授業づくりについて書いてありますので参考にしてみてください。

「言葉」を大事にした教室を目指しましょう。

- ・「言葉」はすべての学びの基礎である。
- ・普段から学校生活の中で「言葉」を意識して大事に使わせる。
- ・なぜそこが気に入ったのか。なぜそこが心に残ったのか。なぜ、そこを換えるといいのか「言葉」を通して伝え合わせる。
- ・一人一人の思いや考え方は違うのだと気づかせ「言葉」を通してお互いを認め合わせる。
- ・教科書の文章や一つ一つの語句や言葉とのつながりに関心を持たせる。
- ・視写をすることを大事にする。
- ・読みを通して興味や方法を持たせるようにする。
- ・言葉の力は、単に知識だけでなく実際に使うことで身につく。



「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域の学習がどの授業にも有機的に結びつくこと。

授業における基本事項を確認しましょう。

○発問

- ・反応されるイメージを持って(正解不正解がはっきりしているもの。どの答えも正しいもの。根拠をもとに答えられるもの)
- ・自分の考えをノートに書いてから発言させる。
- ・一問一答は避けて複数回答を引き出す。
- ・「わかりましたか」だけでは、不十分(何がどのようにわかったか)

○板書

- ・板書用ノートを作って授業の予習をする(マス目を使う。句読点、行間の空、色を使う。)
- ・児童のノートを意識して計画的に板書する(丁寧にゆっくり書く、線を引いて段をわけたり、チョークの色も大事なところは黄色、説明するところは水色等々使い分ける)

⇒ 低学年:1マス1マス丁寧に 中学年:見やすいノートが作れるように 高学年:色を使って工夫する

○ノート指導

- ・きちんと書くことが基本である。
- ・書くことで自分の考えを持てるようにする。

(ノートを丁寧に書く。板書を写すことから始める。考えたことを書く時間を作る。ノートをほめて赤ペンを入れて意欲を持たせる。具体的な指示を出す。何を書くのかわかりやすく指示する。)

○机間巡視

- ・今日は、この列と決めておく。
- ・姿勢と鉛筆の持ち方、ノートの取り方、誰がどんなことを書いているかチェックをする。
- ・自分の板書もチェックする。
- ・低学年は、まず姿勢と鉛筆の持ち方を。中学年は、ノートをきれいに書いているか。高学年は、黒板を正確に書いているか確認する。



○その他

- ・授業中の児童は、常に「読む」「書く」「話す」のいずれか活動をしているようにする。教師が話している時間を多くとらない。
- ・最後の5分で感想を書く。(低学年:授業中にしたことを書く。中学年:覚えたことと活動したことを書く。高学年:キーワードを入れてどう思ったかを書く。ノート検定、ノート整理)
- ・国語辞書は国語の授業だけでなく、常に机の脇に準備をする。

これからの国語科授業を考えましょう。

○国語の授業におけるアクティブ・ラーニング

聞き手の反応を確認しながら話すこと、整理をしながら聞くこと、伝えたいことは何かという目的を持つこと

⇒自分の考えと比べる、違いを探す、思考ツールを活かしながら聞くなどの方法を指導する過程で育つ学習習慣である。

○新しい時代に必要となる資質・能力の育成

自立した人間として他者と協働しながら、創造的に生きていくために必要な資質能力、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーション能力、豊かな感性ややさしさ、思いやり等

⇒何ができるようになるか。 学習評価の充実

何を学ぶか。

教科・科目等の新設 目標・内容の見直し

どのように学ぶか。

課題の発見・解決に向けた主体的・共同的な学び他の教科や日常生活に生きることをめざす。家庭学習、図書館の利用、調べ学習、幅広い学習体験を積み上げる。教え合うこと学び合うことを積み上げながら「言葉」で関わり合うことの大切さに気づく学習経験を積み上げる。学習内容の理解を深めたり、広げたりする場として一人で力を蓄える。グループで高まり合う。学級集団で考えるなど学習形態の目的を明確にする。

どんな児童生徒を育てたいのか。どんな学級に育つといいのか。どんな学校になればいいのか。児童生徒の実態や保護者の願い、教職員の思いを整理し、ねらいをしっかりとって日々実践していきたいです。